

ちょっとだけ!!
フライングディスク
将来構想会議
2020

将来構想メモvol.4 (2020/09/29)

Flying Disc Times
presents

<ゲストプロフィール>

佐藤さくら

活動拠点:関東地区

所属:法政大学→IKU

大会参加歴:2018U24(ミックス)

関わり方:プレイヤー

三井由貴子

活動拠点:北海道、東北

所属:International Pacific College (New Zealand)

→所属チームなしが11年間続く

(色々なチームに大会の時だけ混ぜてもらう生活)

→WASABI-山葵-

大会参加歴

2014 WMUCC SANZ(マスターウィメン)、2017 WCBU マスターミックス代表、

2018 WMUCC 山葵で出場、2019 AOBUC 山葵で出場

現在、WMUCマスターミックス部門に挑戦中

関わり方:プレイヤー

<フライングディスクをこうしていきたい>

- ・ミックスチームの発展には伸びしろがある。
”セカンド”てきなポジションからの脱却
- ・日本国内でミックス、マスターを盛り上げていきたい

<困っていること / 課題>

- ・メン部門、ウィメン部門への固執。
- ・社会人チームでの「ミックス」の選択肢がない
- ・マスター世代、女性プレイヤーの確保

＜考えている解決策＞

・**学生時代から積極的にミックスへ参加できる環境整備**

→大学選手権での「ミックス」という意識改革。発表の場を用意する。

例)学生向けに地域ごとにミックスの練習会を開催する

→ミックス特有の攻め方やミックスでのマインドを教えてもらう

きっかけづくり

・**ミックス、マスターでも続けやすい / 女性も戻りやすい環境作り**

・競技性調整

:フィールドサイズの縮小、競技時間の短縮

・アクセスへの考慮

:子育て世代や中間管理職世代は遠征のハードルが高い

・大会中に子供と自分が離れなくてもいい環境

:特に夫婦の一方だけやっている場合

<論点の整理>

- ・学生にミックスの選択肢を広げる
 - 「オープン、ウィメン部門より格下」という概念を払拭する
 - 競技性、競技志向の高いミックスを競技歴が浅いうちから経験
- ・ミックス、マスターの悩みは必ずしもカテゴリーに限った悩みではない
 - 女性活躍、続けやすい・復帰しやすい環境の整備
 - 遠征しなくても参加できる、「近くでの1Day大会」の増加

参加者写真

担当メンバー: 山下洋史

